JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	野生生物保護の知識から、知識を活用した野生生物保護へ
Author(s)	敷田，麻実
Citation	Wildlife Forum, 12(1): 2-2
Issue Date	2007-05-10
Type	Article
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/16986
Rights	Copyright (C) 2007 「野生生物と社会」学会. 敷田麻実, Wildlife Forum, 12(1), 2007, pp.2-2. http://dx.doi.org/10.20798/wildlifeforum.12.1_2
Description	

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

Leader's Voice

野生生物保護の知識から、知識を活用した野生生物保護へ

野生生物保護学会
会長　敷田　麻実
（北海道大学
観光学高等研究センター 教授）

野生生物の保護や管理に取り組む本学会は、豊かな専門知識を持つ研究者や実践家、いわゆる「専門家」の集団である。所属する会員は専門分野で優れた知識を誇り、また新たな知見や知識を生み出すべく、日々研究に励んでいる。専門家がこうした「知識創造」を競うことで、野生生物保護・管理は進歩した。学会誌を見てもそれは確信できるが、学会もまた知識を生み出す支援の役割は重要だと考え、それをレーゾンデートルとしてきた。

しかしこれからは、生み出された専門知識をどのように活用するか、どのようにフィールドに還元するかを考えなければ、専門家集団としては不十分である。創るだけではなく、活用まで考えるのが、専門家に求められる役割であろう。そのため野生生物保護学会は、専門知識の蓄積と創造に加え、その活用の支援も担いたい。

そこで本学会では、専門知識をダイナミックに活用するために、専門知識を持つ者同士が議論し、その活用を考える場を創ろうと考えている。知識活用では、多様な知識を持つ学会内外の研究者や実践者が交流し、協働することが重要になるからだ。

そのための有効なツールであり、場であることを期待して、今回フォーラム誌を刷新した。この新しい『フォーラム誌』が、これからの野生生物保護・管理の進むべき道を照らすことを確信している。

「今号のトビラ問答」

Q　日光でシカが増えすぎたという話を聞いたのですが、どんな影響があるのですか。

A　シカが好きな植物が減って、シカが嫌いな植物が増えます。その植物を利用する昆虫などの数も連動して増減します。土壌動物にも影響が出ます。こういう連鎖反応を「エコロジカル・カスケード」と言います。

（回答者・須田知樹
立正大学地球環境科学部講師）